

著作権を通して振り返る日本語教育

— 教育実践と著作権、その交差点で考える —

参加費
無料

「この画像、授業で配るプリントに載せてもいいのかな?」「オンライン授業で動画を見せたけど、大丈夫かな?」こんなふうに、授業のちょっとした場面で著作権のことが気になったことはありませんか? 日本語教師は、日本語学校だけではなく、小・中・高校や大学、専門学校、地域のボランティア教室、さらにはフリーランスとしてオンラインで教えるなど、実に様々な場で活動しています。でも実は、著作権の扱いはその「場」によって大きく異なります。たとえば、「著作物は教育目的なら自由に使える」と思われがちですが、教育著作権は、一定の制約のもと、一部の教育機関にのみ認められた例外です。教育著作権の要件に該当しない場合、著作権者の許諾を得ることが原則です。本セミナーでは、著作物や公衆送信、利用規約、AIとの関係などを取り上げ、教育実践と著作権の交差点で何を考えるべきかを一緒に学びます。反転授業形式で、クイズや対話を交えながら、実践に活かせる知識・スキル・態度を身につけていきましょう。著作権を「守る」ことだけでなく、自分の教育実践を見つめ直し、著作物とどう向き合うかを主体的に考えられる、そんな「反省的实践家」を目指して、私たちと一緒に学びませんか。

※事前確認資料の内容をセミナーまでに取り組んでおいてください。セミナー当日の内容の理解がより深まるように構成しています。事前確認資料は申込フォーム入力後に自動返信メールでお送りいたします。

セミナー講師陣・プロフィール



保坂敏子氏

日本大学通信教育部通信教育研究所研究員、国際基督教大学大学院教育学研究科修了（教育学修士）。1985年よりJICA、慶應義塾大学、早稲田大学、日本大学などで日本語教育に従事。2014年より2025年まで日本大学大学院総合社会情報研究科（通信制大学院）教授。2025年より現職。ICTを活用した通信制大学院において日本国内外の現職言語教師（日本語、国語、英語、ロシア語、韓国語）の教育・研究指導に従事。研究分野は、映像作品とICTを介した言語文化教育、インストラクショナルデザイン。2024年度から始まった登録日本語教員の経過措置に係る経験者講習において「日本語教育とICT」「著作権」を担当。



高橋薫氏

創価大学 学士課程教育機構教授 総合学習支援センター 副センター長。お茶の水女子大学大学院より博士号（学術）を取得。東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術講座、東洋大学 国際センター、早稲田大学人間科学部を経て、2020年より現職。研究領域は日本語教育と教育工学。反転授業の研究を行う中で、デジタルコンテンツの作成と著作権問題に関心をもち、日本語教師を対象とした著作権セミナーの開発を行っている。



我妻潤子氏

株式会社テイクオーバー コンテンツライツ事業部長、AIPE認定 知財アナリスト（コンテンツ・ビジネス）、東京藝術大学非常勤講師。早稲田大学大学院法学研究科知的財産LL.M 修了（先端 法学修士）。生徒、学生、教員の他、日本語教師を対象とした 著作権についてのセミナーや講演の講師を務め、特に利用者、権利者の両面からの解説には定評がある。

日時

2025年

9月13日(土)
10時～11時30分

当機構の活動方針

日本語教育推進法の施行、日本語教師の国家資格化の動きなど、日本語教師を取り巻く環境は現在大きく変化しており、日本語教師の社会的役割はますます重要になってきています。当機構では、そのような変化の激しい日本語教育の世界を広い視野で見つめ直し、これからの日本語教師に必要な情報をお届けしスキル・資質・能力を伸ばすためのヒントをご提供致します。

